

豊洲市場における
事務室（銀鱗文庫）の
造作について

◆新事務室は7街区管理棟 3階、広さ42㎡

ゆりかもめ「市場前駅」からペデストリアンデッキを利用、管理棟入口（3階に直結）左手すぐの部屋が新事務室、みずほ銀行の隣です。新事務室の右手には飲食店が並び、さらに東京都のPRセンターへと続く見学メイン通路にあたります。しかし、広さは、現況より狭くなります。

（広さの比較）

- ・ 築地 事務室（図書室）52㎡＋バックヤード11㎡＝63㎡
- ・ 豊洲 事務室36㎡＋倉庫6㎡＝42㎡

現在、バックヤードは貴重な資料の保管やイベント関連道具、冷蔵庫などを置いています。豊洲市場の倉庫は、事務所から離れており、現在のよ
うな使い方は出来ず、物置としての利用以外は考えられません。

このようになり狭くなりますが、今後の会員数減少を考慮、将来的な
使用料負担の軽減をはかるため、やむなく取った措置です。

（使用料の比較）

- ・ 築地 7万5,000円/1か月
- ・ 豊洲 4万7,000円/1か月

わずかな額にみえますが、銀鱗会総収入から考えると、年間336,000円
というのは、大きな比重を占めます。

◆必要とされている「図書室」としての役割

銀鱗会の経済状況から、図書室の継続を疑問視する声もあります。

しかし銀鱗文庫は、「銀鱗会の銀鱗文庫」ではなく、「市場の、魚河岸の図書室」として、雑誌や新聞、テレビやラジオでも頻繁に取りあげていただきました。いまでは市場関係者だけではなく、一般の利用者も年々増加し、利用方法も多岐に渡ってきています。

★一般的な図書閲覧・・・市場のことや魚介類、寿司をはじめとする料理についての閲覧が主です。大人から子供まで来室されます。

★論文作成への資料公開とアドバイス・・・市場の仕組みのほか、昨今は築地市場の解体が決まったことで、建物関係の関心も高くなっています。小学生の自由研究のための利用も、毎夏休みにあります。

★市場研究・・・大阪の佃との関係、魚河岸の歴史など、歴史的市場研究は、特に年配の方からの問い合わせが多く、大阪やさらには北海道など、遠方からお越しになる方もいます。

★ルーツ探し・・・日本橋のアーカイブスも多数保存していることが知られており、ご自分のルーツ探しに訪れる方も多くなっています。

★メディアへの資料・情報提供・・・市場関係の新聞、印刷物、写真等のデジタル化を進めています。特に写真利用が多く、有料で対応しています。業会の記念誌、魚河岸時代からの印刷物など、市販されていない書籍も多い

ため、利用価値が高いようです。さらに、電話、メールの問い合わせも多く、「市場の電話相談室」の役目も担っています。

★ミニセミナーの対応・・・内容、時間、人数等が許す限り、一般（海外も含む）の方々のご要望にお応えしています。セミナーの内容は市場の概要、歴史、寿司や天ぷらなどの食関係などです。

★情報交換の場・・・全国の産地のパンフレットを紹介するなど、産地と緊密な情報交換をとっており、それを来館者に還元しています。

★憩いのスペース・・・OB、OGが集まる場としても。

こうした活動が認められ、平成28年、専門図書館協議会の「専門図書館奨励賞」を受賞しました。さらに29年には、横浜市で開催された「第19回図書館総合展」に招待され、「小さき図書館の挑戦」として講演もしました。全国の専門図書館の司書をはじめとする図書関係者から御支持や御共感をいただきました。

外にも、内にもオープンな窓口として機能しながら、市場の文化面をサポートしているのが銀鱗文庫です。豊洲市場での図書室の継続は、プラス要素が大きいと考えます。

豊洲では、図書室としての継続を！

◆図書室改装にむけて

当初は、机と本箱を置く程度で考えていました。しかし、これからの図書室のあり方、また、先輩諸氏の意志を繋ぐためには、相応の装備が必要との結論に達しました。

★次世代へのバトンタッチ・・・現在の銀鱗文庫は、昭和 37 年、銀鱗会創立 10 周年を記念して設置されました。部屋を囲む書棚は特注品、さらに中央スペースに置かれた大きな書棚 3 本は、国会図書館司書のアドバイスのもとに購入したもので、いずれも高額であったと想像します。銀鱗文庫は、この先輩諸氏のご努力のもと、半世紀以上を過ごしてきました。

豊洲への移転を機に、今度は私たちの世代が、新たな図書室を作ってゆく段階にきていると考えています。

★時代に合わせた機能性・・・現在、全国各地にある図書室は、閲覧だけでなく、さまざまな利用ができるように工夫されています。楽しめる場所、情報発信ができる場所、セミナー、映像公開、デジタル閲覧など、読書するだけの場所ではありません。

豊洲でも、小さいなりにさまざまな機能を持たせる工夫をしました。

◆ 5つの機能

① 図書機能

水産と市場のアーカイブスに特化。市場の図書室ならではの蔵書に限定します。先輩諸氏が残した財産である書棚を修復、これを中心にして、壁面を有効利用した書棚を加え、3,000冊ほどの蔵書を考えています。

② ギャラリー機能

市場や魚介類の写真、絵などを市場内で発表したい方が多いため、壁面ひとつはギャラリースペースとします。すでに写真家、版画家、イラストレーターなどから申し込みがあり、来春まで予約は埋まっています。

③ ミニセミナー機能

事務室の中央には、10数人が座れる集いのテーブルを設置します。プロジェクターも用意し、ミニセミナーが行えるようにします。

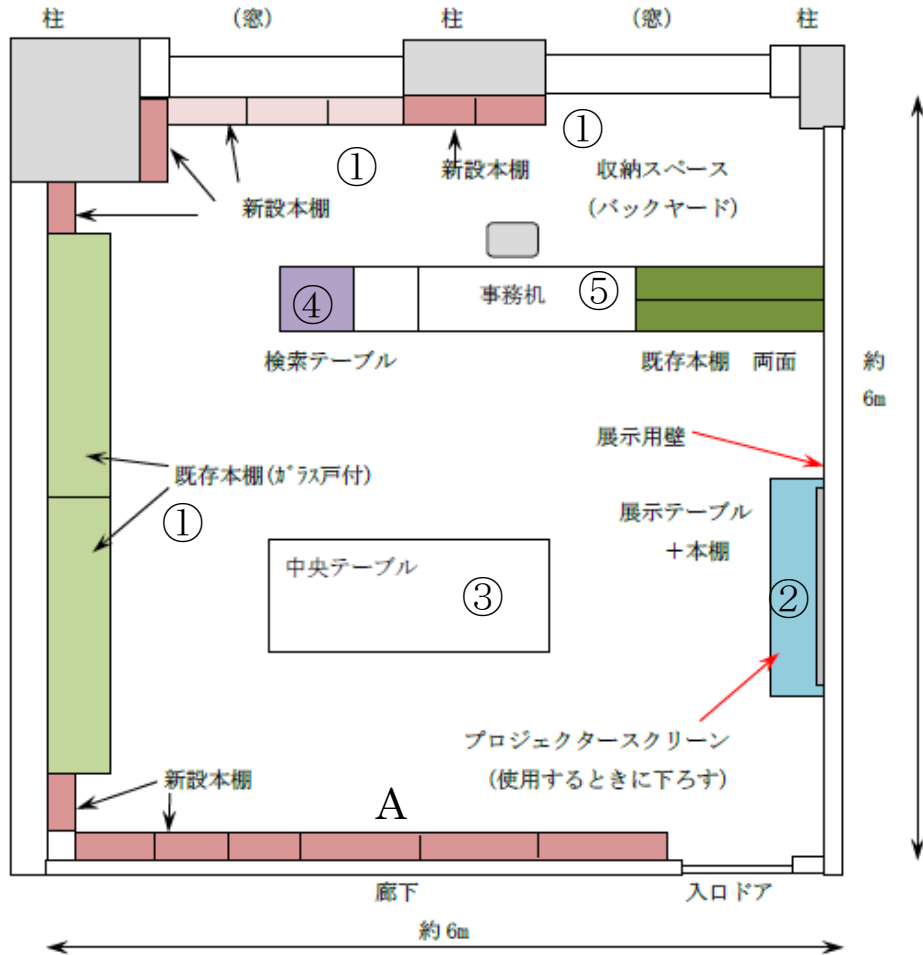
好評の「江戸前寿司の歴史」、「天ぷらの歴史」講座、銀鱗文庫にある絵本やマンガなどを使った「子供向け読み解き講座」、絵本作家を招いての「子供向けお魚お絵かき教室」。会員の仲卸の皆様には、担当魚種について話してもらうなど、「魚河岸の図書室」だからこそできる、多彩なセミナーが考えられます。

④ デジタル資料閲覧機能

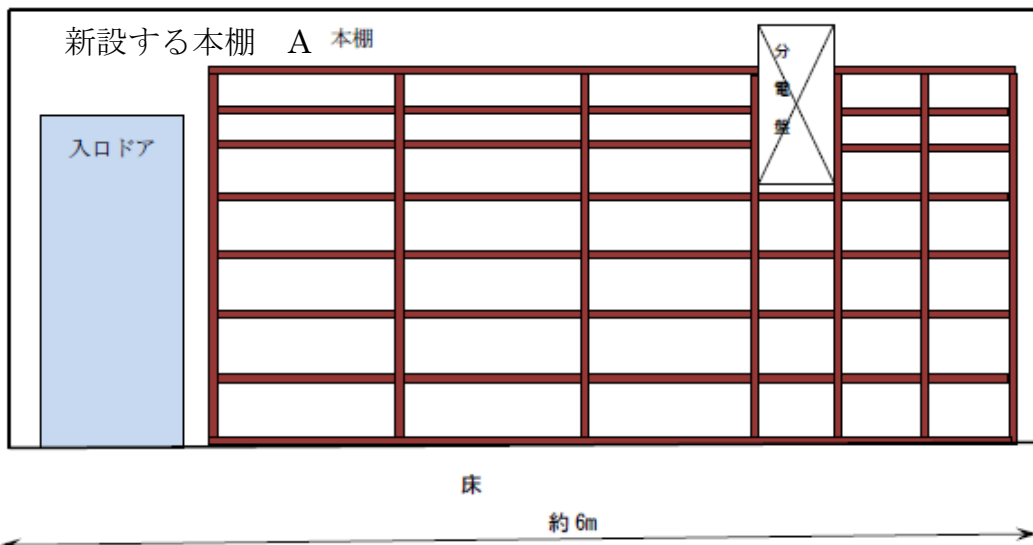
デジタル化した資料閲覧のコーナーです。

⑤事務所機能

事務機のほか、お茶セット等バックヤード機能を含めたスペースです。



天井 (高さ 2.7m)



◆施工者の紹介

銀鱗文庫の昭和の匂いを残しながら機能的な図書室にしたい。また、パブリックなスペースですから、やはりセンスのよさも大きなポイントです。

どなたに依頼するのか、これが大きな問題でした。初対面の雑談で、見積額を聞いてお断りした方、銀鱗文庫の姿勢への理解が得られず断念した方などいらっしゃいました。何人かにお目にかかりお願いしたのが、「星居社」です。

設計担当の萩原潤さんは、銀鱗会の事業報告書等を読んで会のことを理解していただき、設計が始まりました。「図書室」というパブリックスペースなため、一般の事務所仕様とは異なります。何度も都の造作相談室と打ち合わせの場を設け、基本設計ができました。しかし、予算の問題やこちらのさまざまなリクエストもあったため、数度の設計変更を乗り越え、ようやく形となりました。

★株式会社星居社

高田英明・代表取締役

栃木県益子町にある、衣食住の文化創造 **starnet** を経て、大工となる。益子を中心に集まった大工、設計士をはじめ、陶芸や服飾など他分野の造り手たちと、住宅や店舗の設計施工、家具、衣服等の制作を行う。自然素材、地場素材、土、古材などを生かした建築を行っている。

萩原潤・設計士

高校卒業後、渡欧し、各国を回る。帰国後、大学を卒業。ポルトガルにわたり、建築事務所「植物園」で勤務後、益子町に移住。2016年より、星居社に加わる。

そして・・・

★山本暁・アドバイザー

銀鱗会のデジタル化や機器の寄贈など、銀鱗会にとっては恩人としか言いようがないほどお世話になっています。今回は建築アドバイザーとして、ひとかたならぬご尽力をいただいております。

最後に・・・

星居社の高田英明代表取締役からメッセージを頂きました。

魚河岸 400 年の歴史の転換期に携われることに、
責任の重さとこの時代の目撃者、製作者になれることの喜びがあります。

世界的に見ても類い稀なる大きさの魚河岸の記録の保存と活用は、未来への
伝達の役割を担い、今後の豊洲が刻んでいく記録もしていく場所です。

そこで私たちは、銀鱗文庫を凜として品があり、自然の恩恵を集めた魚河岸
と同じように、「集まっては出て、また集まって」を繰り返す、ずっと永く使
える美しい図書室にしたいと考えています。

銀鱗文庫を運営する皆さんと使う方の笑顔と、未来の人達を想像して作って
行きたいと思います。

星居社株式会社 代表取締役 高田英明